

「授業に関するアンケート（教育システム論）」から

学校教育講座・山田 誠

1. 授業の概要

(1) 科目の位置づけと受講者

この科目は教員免許状取得のための必須科目である。

今年度は、学校教育教員養成課程（社会科学教育、数学教育、理科教育、美術教育、技術教育、家政教育の各専修）の1回生を主な対象とするクラスとして開講された。受講者数は48名である。

(2) 授業の目的・目標

本授業は、すぐれた教員として必須の教養をつけるため、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項についての基礎理論を理解し、改革の動向を把握することを目的としている。

到達目標は、次の2項目である。

①教育の社会的、制度的又は経営的な事項についての基礎概念を理解し、説明できる。

②今日の教育政策・教育改革の動向についての理解を踏まえ、それらの意義・効果や問題点について、自らの考えを論述・表現できる。

(3) 授業の内容

まず学校と学校外の教育を含む教育システムの全体像をイメージし、それがもつ今日的機能について考えることからはじめ、学校のない時代・社会における教育の状況に関する検討を踏まえ、学校の成立と歴史の変遷、学校体系の構造・類型と史的展開について考察した。また、生涯学習社会における学校教育のあり方や、学校・家庭・地域の連携・協力について、法改正等の改革の動きにも目を向けつつ考察した。

2. 今学期の取り組み

(1) 授業のはじめに前回あるいは前回までの概要を手短に振り返ったり、講義のなかで既習の内容との関連づけを行ったりするなどして、ストーリーを意識しつつ、で

きる限り総合的な理解を深められるよう努めた。

(2) 毎回コメント・カードへの記入を求め、授業内容の振り返りと意味づけを促した。また、その記入内容から受講者の理解状況を把握するとともに、参考となる記入例を次回に紹介したり、理解の誤りや不十分な部分について補足説明したりするなどして、後の授業にフィードバックすることを心がけた。

(3) 教材づくりに関して、学校教育法や社会教育法の改正等を受け、関連資料を改訂した。また、よりポイントが明確になるよう、ビデオ教材を再編集して活用した。

3. 授業評価の方法

第14回の授業時に、受講者による授業評価アンケート（「授業に関するアンケート」）を実施した。アンケートは、4段階評価形式の質問が5項目と自由記述形式の質問が1項目である。欠席者があり、回答者は45名であった。

4. アンケートの結果

【授業の内容に関する質問】

1-1. [関心・興味] この授業で取り上げられた事柄について、関心・興味がわいた。

- 4. そう思う：4名（8.9%）
- 3. まあそう思う：25名（55.6%）
- 2. あまりそう思わない：16名（35.6%）
- 1. そう思わない：0名（0%）

【授業担当者の授業方法に関する質問】

2-1. [わかりやすさ] 教員の説明の仕方は分かりやすかった。

- 4. そう思う：3名（6.7%）
- 3. まあそう思う：18名（40.0%）
- 2. あまりそう思わない：20名（44.4%）
- 1. そう思わない：4名（8.9%）

2-2. [視聴覚教材等] プリント、黒板、メディア

(ビデオ等)の使い方は効果的だった。

4. そう思う：3名 (6.7%)
3. まあそう思う：29名 (64.4%)
2. あまりそう思わない：11名 (24.4%)
1. そう思わない：2名 (4.4%)

【あなた自身に関する質問】

3-1. [あなたの態度] あなたは、この授業に積極的に取り組みましたか。

4. そう思う：1名 (2.2%)
3. まあそう思う：28名 (62.2%)
2. あまりそう思わない：15名 (33.3%)
1. そう思わない：1名 (2.2%)

【授業全体に関する質問】

4-1. [得るものがあつたか] この授業により、考えが培われたり、得るところがありましたか。

4. そう思う：7名 (15.6%)
3. まあそう思う：32名 (71.1%)
2. あまりそう思わない：5名 (11.1%)
1. そう思わない：1名 (2.2%)

【自由記述】

授業で学ぶことができたこと、よかったこと、こう改善するとよいという指摘など、自由に記述してください。

(「考察」で記述内容を取り上げる。)

5. 考察と課題

「関心・興味」及び「態度」は、いずれも、肯定(「そう思う」及び「まあそう思う」)が約3分の2という結果であった。関心・興味を高める工夫や、授業時間外の学習に取り組むための適切な指示等にも配慮していきたい。

「わかりやすさ」については、肯定と否定がほぼ半々となった。自由記述では、説明の仕方について、「説明が長すぎて結局何が言いたいのか分からなくなってしまったところもありました。」「ちょっと説明が遠回しで分かりにくいところがありました。」という指摘があった。関連して、内容が難しく、理解しづらいことがあったという趣旨の記述が2件あった。他方、「丁寧な講義のすすめかたで、よく理解しながら授業を受けることができた」「必ず授業の初めは、前回の復習からはじめられていたので、思い出すことができ、また欠席を

してしまった時でも、だいたいの内容を把握して、新しい内容に取り組むことができました。」という肯定的記述もあった。今後も授業と授業のつながりや文脈を大事にしつつ、説明の仕方に改善が必要である。

「視聴覚教材等」については、およそ7割が肯定的な回答であった。自由記述には、「グラフや図が分かりやすかった」「内容としてはとても興味が持てたし、ビデオなど、効果的でよかった」という意見の他、「一文一文が長くなりがちなので、短く区切って黒板に書いて下されば、なおさら理解しやすい」という記述もあった。

「得るものがあつたか」については、肯定的回答が86.7%であった。自由記述を見ると、「『教育』についてシステムという視点から学ぶことができるととても良かった。難しいと思うことも多々あったが、システムや歴史を学ぶことで今の『教育』について深く考えることができると思う。」「教育法規などから教育に大切なものを見ていくという授業はとても為になった。」「教育が社会に及ぼす影響や、その重要性を学ぶと共に、学校の成り立ちを学び、“教師”の役割を自分なりに理解することができたと思う。今まで漠然としていた“教育”を具体的に、体系だてて知ることができて良かった。」等々の記述があった。

その他、コメント・カードの記入時間をもっと確保してほしいという自由記述が複数あった。授業の最初に前回の概要を振り返ったり、コメント・カードから受講者の記述を紹介したりすることもあり、その後予定の内容を消化しようとする、授業の最後が時間的に余裕がなくなりがちである。なかなか時間配分が難しい。この関連では、「授業の最後に配られるコメントカードを、もっとはやく配っていただけると、もっとその日の授業について振り返りながら書く時間が増えて良いと思います。」という意見もあった。他の授業では、授業の初めにカードを配るやりかたも試みている。さらに検討・改善を図っていきたい。

アンケートに協力してくださった受講者のみなさんに感謝します。